

幽閉する男

A Man Confined

ダニエル・マチャド

Daniel Machado

冬青社

幽閉する男

*A Man Confined*

*Daniel Machado*

ダニエル・マチャド

冬青社













































## 「幽閉する男」

本書に収められた写真を撮影したのは、2001年から2007年にかけて、被写体はウルグアイの首都モンテビデオ市ゴエス区の一邸宅である。

そこは20世紀半ばウルグアイの政界を率いた名望ある一族の所有する家だった。

うち続く戦争の結果ヨーロッパや日本は窮乏をかこった20世紀前半、1950年代半ばまで、ウルグアイ、アルゼンチン両国はこれと全く対照的に、繁栄と力強い経済を享受する日々を生きた。1960年代になるとウルグアイはゆっくりと下り坂へ移行し、その度を強めていく。いずれ2002年にはウルグアイと周辺地域とを揺るがす大規模な経済・政治・社会危機が待ち構えていた。かつては「南米のスイス」の異名をとったこともある小国は、これ以来とても同じ国とは思われない有様を呈している。

私事になるが、ちょうど今世紀初め、建築を学ぶ大学生として一、二年を残すのみとなった自分は、自己表現の方法として写真に取り組むようになった。商業写真でも報道写真でもなく写真家として撮りたいものを撮る作家本位のシリーズを初めて手掛けるにあたり、同時期のウルグアイ社会の現実を重要な構成要素として作品に組み入れてみた。

屋敷内を撮り出したのはこのような流れのさなかであり、モンテビデオの都市生活、ウルグアイの社会生活が痛み崩れゆく足取りが、この閉じられた空間内にある種みごと映し出されていることに、撮影者としていたく興味を掻き立てられた。時の経過がある一族に引き起こす波紋、のしかかる疲弊、孤独、それらが不在というものに徐々に棲みつかれてゆく家の中に写りこんでいる。

とはいえ屋敷はもとより、いまだその家に留まり続ける唯一の住人、あの一族のただひとりの生き残りとなった人物の生にも注目している。お払い箱にされることを拒む調度品や記念品の数々に囲まれた世界、その海の底に沈んだ難船者は、決まりきった日々をどのようにやり過ごすのか。己れの思い出から抜け出せなくなった、一人の男。

ダニエル・マチャド

(翻訳：飯島みどり)



ダニエル・マチャド www.danielmachado.com

1973年ウルグアイ、モンテビデオ生まれ。東京在住。

フリーランス・フォトグラファー、立教大学ラテンアメリカ研究所研究員。

IEC、ウルグアイ共和国大学にて、建築とコンピューターグラフィックを学ぶ。

FCU (モンテビデオ)、GrisArt Escola (スペイン・バルセロナ) にて写真を学ぶ。

#### 個展 (抜粋)

2016年「Bajo el cielo azul」国立劇場ソリス・フォトギャラリー <モンテビデオ>

2010年「Miguelete Jailhouse」ギャラリータントテンポ <神戸>

2009年「幽閉する男」銀座ニコンサロン <東京>

2007年「Tango Con-fusion」Tabaris ギャラリー <モンテビデオ>.

2006年「Arquigrafías」. Arte x Arte ギャラリー <ブエノスアイレス>

2005年「El Proyecto Rodelu」カテテ宮殿 (共和国博物館) <リオデジャネイロ>

2005年「El Hospital Rodelu」Municipal Center of Photography <モンテビデオ>

2004年「La Familia Rodelu」ゲーテ・インスティトゥート <モンテビデオ>

2002年「トランスアーキテクチャー」Facultad de Arquitectura

ウルグアイ共和国大学 <モンテビデオ>

#### グループ展 (抜粋)

2014年「Tango Oriental」Korea Foundation Gallery <ソウル>

2013年「Migrar es cultura」Museum of the Américas. <マドリッド>

2012年「Contemporary Uruguayan Artists」IDB 文化センター <ワシントン D.C.>

2012年「TANGO」Traumaris Space <東京>

2011年「About Change」世界銀行 <ワシントン D.C.>

2008年「Dia a Dia」Fotografia Festival Internazionale di Roma <ローマ>

2008年「Descubrimientos」PhotoEspaña <マドリッド>

2007年「Selecciones ZoneZero」Siggraph-07 <サン・ディエゴ>.

2005年「Uruguayan contemporary photography」ABC TreeHouse gallery

<アムステルダム>

DANIEL MACHADO www.danielmachado.com

Born in Montevideo, Uruguay in 1973. Lives in Tokyo.

Freelance photographer and Fellow Researcher at Rikkyo University, Latin American Institute.

Studied architecture and computer graphics at IEC and University of the Republic of Uruguay. Studied photography at FCU (Montevideo) and GrisArt Escola (Barcelona, Spain).

#### Solo exhibitions (selected)

2016 “Bajo el cielo azul”. Solis Theatre photo gallery. Montevideo.

2010 “Miguelete Jailhouse”. Tanto Tempo gallery. Kobe.

2009 “Confined man”. Ginza Nikon Salon. Tokyo.

2007 “Tango Con-fusion”. Tabaris Gallery. Montevideo

2006 “Arquigrafías”. Arte x Arte gallery. Buenos Aires.

2005 “El Proyecto Rodelu”. Museum of the Republic. Rio de Janeiro.

2005 “El Hospital Rodelu”. Municipal Center of Photography. Montevideo.

2004 “La Familia Rodelu”. Goethe Institute gallery. Montevideo.

2002 “Trans-architectures”. Faculty of Architecture. Montevideo.

#### Group exhibitions (selected)

2014 “Tango Oriental”. Korea Foundation. Seoul.

2013 “Migrar es Cultura”. Museum of the Americas. Madrid.

2012 “Contemporary Uruguayan Artist” IDB Cultural Center. Washington DC.

2012 “Tango”. Traumaris Space. Tokyo.

2011 “About Change”. World Bank. Washington DC.

2008 “Dia a Dia”. Fotografia festival internazionale di Roma.

2008 “Descubrimientos”. Photo España. Madrid.

2007 “Selecciones ZoneZero”. Siggraph-07. San Diego, USA.

2005 “Uruguayan Contemporary Photography”. ABC TreeHouse gallery. Amsterdam.





9784938551780



1921036024008

ISBN 978-4-88773-199-8

C0072 ¥3500E

定価：本体 3,500 円＋税

冬青社